

「なぜ薬物を」 依存脱却に 欠かせぬ視点

著名人による覚醒剤所持事件などが相次ぎ、あらためて注目が集まる薬物。人はなぜ、危険なものだと分かっているから手を出すのか。県立精神医療センター（横浜市港南区）の専門医療部長・小林桜児さん（46）は、従来の捉え方では説明がつかないと指摘。薬物依存症者の治療においては、「本人にとってなぜ、薬物が必要だったか」を考える視点が重要だと訴える。

（岡本 暁子）

1月28日、薬物依存症者を抱える家族の会・横浜ひまわり家族会が開いたオープンセミナー。登壇した小林さんは、来場者に問い掛けた。「一度でも薬物を使うと、やめられない脳に変わってしまうのでしょうか」

従来、依存症とは、依存症になりやすい遺伝子に、家庭などの環境要因が加わり、アルコールや薬物、ギャンブルなどから繰り返し快感を得るうちに、やめられない脳に変わると説明されてきた。

小林さんの問い掛けは続く。「それならなぜ、脳の病気ののに、自助グループの集まりだけで治ることがあるのでしょうか」

会場で示された数々のデータのうち興味深いのは、小林さんが県内の中学2〜3年生440人に実施したアンケート（2010〜11年）の結果だ。「人に迷惑を掛けないなら薬物を使用しても良い」と回答した22人を細かく見ていくと「家族と話すのが好きではない」「近所の警官も自分のことなんか

県立精神医療センター 専門医療部長

小林 桜児さん



なぜ薬物が必要だったかを考える視点が重要だと語る小林さん
横浜市中央区の県民ホール

守ってくれない」「クラスの他の人たちも心の底から仲間だと信用できない」「学校で勉強に自信が持てない」と感じるなど共通の特徴があった。

小林さんは、今はいわゆる「不良タイプ」よりも、「過剰適応タイプ」の方が重症だと指摘する。「不良」は生きづらさを抱えながら、孤立と無力感のサインだとも助けてくれないなら、薬物に助

けてもらった方がいい。生きづらさを感じる子どもたちの心の内が、垣間見える。注目すべきこんなデータもある。小児期に虐待や養育放棄、家族の機能不全（親の物質乱用、両親間の暴力など）といった逆境体験が多ければ多いほど薬物使用リスクが拡大。あてはまる項目が5個以上の子は、14歳までに違法薬物を使用するリスクが、0個の子と比べ9倍に跳ね上がるというのだ。

さらに覚醒剤依存症者の7割が学校を中退し3割が親と早期離別、多剤依存症者の2割がいじめや不登校を経験していたとのデータも。小児期の逆境体験と薬物使用との間に密接な関係があることがうかがえる。

小林さんは、今はいわゆる「不良タイプ」よりも、「過剰適応タイプ」の方が重症だと指摘する。「不良」は生きづらさを抱えながら、孤立と無力感のサインだとも助けてくれないなら、薬物に助

けてもらった方がいい。生きづらさを感じる子どもたちの心の内が、垣間見える。注目すべきこんなデータもある。小児期に虐待や養育放棄、家族の機能不全（親の物質乱用、両親間の暴力など）といった逆境体験が多ければ多いほど薬物使用リスクが拡大。あてはまる項目が5個以上の子は、14歳までに違法薬物を使用するリスクが、0個の子と比べ9倍に跳ね上がるというのだ。

さらに覚醒剤依存症者の7割が学校を中退し3割が親と早期離別、多剤依存症者の2割がいじめや不登校を経験していたとのデータも。小児期の逆境体験と薬物使用との間に密接な関係があることがうかがえる。

小林さんによれば、アルコールや薬物は、溺れかかっている人にとつての浮輪のようなもの。自分をコントロールできず感情の海を上手に泳げない人から、無理に浮輪（アルコールや薬物）を奪っても、近くにあるドラム缶（他の薬物やギャンブルなど）にしがみついただけ。

なぜ薬物が必要だったかを考える視点が重要だと語る小林さん
横浜市中央区の県民ホール

小林さんによれば、アルコールや薬物は、溺れかかっている人にとつての浮輪のようなもの。自分をコントロールできず感情の海を上手に泳げない人から、無理に浮輪（アルコールや薬物）を奪っても、近くにあるドラム缶（他の薬物やギャンブルなど）にしがみついただけ。

最近では、依存症が慢性疾患で、長期的視点での医療の必要性が認識されつつある。では、現代の依存症治療とは、どうあるべきか。

小林さんは言う。大事なものは、失敗を責めずに援助者を頼るよう助言するだけだ。と。それにより自立心や自尊心が芽生え、家族の前でも本音を言えるようになる。「風通しの良い家族関係」が鍵だ。援助者にSOSを出し、薬物ではなく、「人」に頼る対処方法でトラブルが解消できるように。最後に、家族へのアドバイスとして「信じる」「手放して見守る」「成長させ成長する」の三つのキーワードを送った。すぐに断薬できなくて当たり前。焦らず力まず、程よい距離感を保つこと。家族以外の人を頼る練習をさせること。とのメッセージだ。

「皆さんも、家族として成長しなくてはならないのです」